

# 「住田型産直」の未来を探る

岩手県立大学の公開地区講座(県立大学 県学術研究振興財団主催)が十一月八日、農林会館で行われ、関係者など約九十人が参加しました。

この講座は、県内五地区で開催されており、住田地区講座は「産直」がテーマ。本町では、自立・持続していくための重点施策として「宿場・賑わい・ルネッサンス」プロジェクトを推進。その方向性として「住田型産直システム」の構築を掲げており、今回の講座が開かれました。

はじめに県立大学総合政策学部の佐藤利明教授が「産直・直売でいきいき地域いきいき人生」と題し講演。直売所には「売り上げ型」と「生きがいの型」の二種類があることを説明。売り上げ型の一例として



▲パネリストがそれぞれ抱えている課題を発表

ふるさと市場(江刺市)をあげ、年間で三億円を売り上げる成功例として紹介しました。さらに「いい噂はなかなか伝わらないが、悪い噂はすぐに広まる」とし、産直と言えども、商売という意識を持つべき。店内の整理整頓や商品の陳列にも工夫を凝らすことが必要」と強調しました。

「産直にかける夢」をテーマにしたディスカッションでは、佐藤教授をコーディネーターに吉田正伸さん(種山直売所)、菊池孝さん(赤羽根直売所)、松田ひろ子(菓子工房ひまわり)、浦嶋裕子さん(地域コーディネーター)、小向正悟助役がパネリストを務め、それぞれの産直経営で抱えている課題などを発表。その後、参加者らと意見交換しました。



▶「産直と言っても、商売意識を持つことが大切」と強調する佐藤教授

## 善意のミニ文化祭が好評

お茶飲みボランティア「あすなるの会(小沢しづ子会長・会員三十五人)が十一月十一日から三日間、菊池勉さん(大崎)宅で「ミニミニ文化祭」と題した作品展示会を行いました。

これは、お茶飲み会に集まるお年寄りたちから「芸術の秋」を感じてもらいたいと、昨年からお開いているもの。

八畳ほどの居間には、手芸や習字、工芸品、ちぎり絵、川柳などが所狭しと展示され、普段の「お茶つこ飲み会」とは違う光景に、お年寄りたちは「すばらしい作品がいっぱい、目の保養になります」と話していました。



展示された作品を観賞する高齢者たち

## 異文化の風習に興味津々



大きなかぼちゃの飾りに見入る園児たち

有住保育園で十月三十一日、英語教室が行われました。

これは、幼年期から英文化に親しんでもらうことを目的に、毎月実施しているもの。

この日はちょうど、米国の収穫祭「ハロウィン」と同日。町英語指導助手のマーク・トンプソンさんが、同園庭で栽培された「かぼちゃ」をくりぬき目鼻、口を付けた。飾りを作るなどして、同祭を紹介すると園児らは、異文化の風習に興味津々。

最後には、英語でマークさんに、お菓子をおねだりして、楽しい時間を過ごしました。

## 下在チームが団体初優勝



団体の部で優勝した下在チーム

第二回町長杯クラウンドゴルフ大会が十月二十六日、運動公園で行われました。

大会には、各自治公民館から十一チーム、百十一人が参加し、日ごろの練習の成果を競い合いました。

団体の部では、下在チーム(写真左から)菅野京子さん、菊池レン子さん、佐々木絹代さんが、個人の部では、水野昌平さん(両向)がそれぞれ優勝しました。

## ちびっ子消防士が大活躍

防火服を着て放水体験する園児たち

秋季全国火災予防運動の一環として幼年消防教室が十一月十日、世田米保育園で行われました。

この日は、午後九時から火災発生を想定した避難訓練が行われ、その後、園児らは住田分署員の指導のもと、煙を充滿させた体験ハウスで避難方法などを学びました。また、防火服を着ての放水体験では、「消火」と書かれたのを倒し、「ちびっ子消防士」は大歓声。最後には、消防車と四、五才児が綱引対決するなどして防火の気持ちを養いました。



珍しい話題などがありましたら総務課行政係へご連絡を  
☎21111内線115

## 多彩な芸能が本町で競演



← 収穫の喜びを表現(麦まき踊り)



→ 勇壮な踊りを披露(柿内沢鹿踊)

第五回気仙郷土芸能まつり(気仙広域連合主催)が十一月二十三日、農林会館で行われました。

会場には、約六百人の観衆が詰めかけ、伝統芸能の競演に、盛んな拍手を送りました。

この日出演したのは、気仙地区から本町の柿内沢鹿踊や天獄「麦まき踊り」をはじめ、菅生田植踊り、赤澤鏡剣舞、前田鹿踊り、平七福神舞(以上大船渡市)、気仙町けんか七太夫、要谷たるこ踊り、行山流「舞出鹿踊り」(以上陸前高田市)の九団体。また、国指定重要無形民俗文化財の川西大念仏剣舞(衣川村)、県指定無形

民俗文化財の青笹しし踊り(遠野市)が特別出演し、まつりに華を添えました。

柿内沢鹿踊は、繁殖期における雄鹿が、雌鹿を取り合う様子を、勇壮な踊りで表現。まつりの最後は、畑の土づくりから収穫まで十の演目づつ、時折こっけいな仕草を織り交ぜながら熱演。観衆から拍手喝さいを受けました。

天獄「麦まき踊り」の佐々木悦見芸能保存会長は「十月から練習してきた成果が十分発揮できた。他の団体と競演し、いい刺激になりました」と話していました。